

1932—1944 発展へのプレリュード

【昭和7年～昭和19年】

商工都市としての第一歩を踏み出した平塚市

city
hiratsuka
kanagawa
70th
Anniversary

昭和4年(1929年)の平塚町・須馬町の合併や、海軍火薬廠、相模・関東両紡績会社の発展などにより、まちは成長を続け、昭和7年(1932年)4月1日、県下4番目の市として「平塚市」が誕生しました。

1932年 DATA ●人口39,079人 ●世帯数7,998世帯 ●面積10.50km² ●人口密度3,722人/km²
[年末]



昭和初期の八幡大門通り◎関東大震災の被害から復興した昭和初期の八幡大門通り。正面奥には、平塚八幡宮の鳥居が見えます。ここは、洋品店、八百屋、食堂など、数多くの商店が立ち並ぶ通りでした。(杉崎俊和氏蔵)

県下四番目の市 「平塚市」誕生

東海道の宿場町としてにぎわっていた平塚のまち。宿場の周辺には、めぐる季節がつれてくるのかな風景が広がっていました。

明治二十二年(一八八九年)、町村制施行とともに平塚駅(宿)と平塚新宿が合併し、平塚町ができます。また、同じ年に須賀村と馬入村も合併し、須馬村(昭和二年に町制を施行し、須馬町に)もできました。東海道本線の平塚停車場が須馬町に近い、平塚町の東側にあったことから、交通から産業にいたるまで、両町のつながりは親密で、合併は必然的なものであったと言われています。そして、昭和四年(一九二九年)、平塚町と須馬町が合併し、「平塚町」が誕生します。

平塚町ができてから二年後の昭和六年(一九三一年)になると、両町合併以前からあった市制施行の動きが具体化します。そして、昭和七年(一九三二年)四月二日、平塚町は「平塚市」になりました。産声をあげた平塚市は、須賀漁港の修築や下水網の完備などの将来計画を立案し、商工都市として、また郊外住宅都市として歩み始めます。

しかし、昭和十六年(一九四一年)に戦争が始まると、市内に軍施設や軍需工場が次々と建てられ、まちの姿は「軍需産業都市」へと変ほうしていくのでした。

●平塚市の主な出来事【1932～1944】

- 昭和7年(1932年) 4月1日、横浜、横須賀、川崎に次いで、県下4番目の市になる
- 昭和8年(1933年) 平塚新宿の商店街にすずらん電灯が配置される。湘南大橋が完成
- 昭和9年(1934年) 県営水道が平塚市に給水を始める
- 昭和10年(1935年) 第1回関東市議会議長会が開かれる
- 昭和11年(1936年) 県道横須賀大磯線が開通
- 昭和12年(1937年) 平塚海岸に市営プール開場
- 昭和13年(1938年) 海軍第二火薬廠内に白鷺塚建碑
- 昭和14年(1939年) 物価停止令施行により、市内に粗悪品が出回る
- 昭和15年(1940年) 県立第二工業学校(現平塚工業高校)が平塚に移転
- 昭和16年(1941年) 市立図書館が平塚国民学校内に開館
- 昭和17年(1942年) 平塚食品青果市場が発足。魚市場が漁業組合販売所と合併
- 昭和18年(1943年) 平塚工業学校の生徒が勤労動員のため各工場へ配属
- 昭和19年(1944年) 大野村町制施行、神奈川中央乗合自動車(株)発足



市制施行当時の駅前◎市制施行を祝い、駅前広場にはアーチが作られました。市制施行の日からしばらく、まちは祝賀ムードにつつまれ、仮装行列や旗行列ができました。



湘南大橋開通◎昭和8年(1933年)、相模川にかかる湘南大橋が開通。開通式ときには、待機する自動車と多くの見物人でにぎわいました。



すずらん電灯◎昭和8年(1933年)、平塚新宿の東海道に面した商店街に、すずらんを型どった電灯が配置されました。約50基配置されたこの電灯は、当時の平塚の繁華街の夜景を彩り、平塚の名物の一つでした。



市営プール開場◎昭和12年(1937年)7月、平塚海岸に市営プールができました。当時の入場料は大人が7銭、子どもが3銭でした。昭和20年(1945年)から昭和26年(1951年)までは米軍管理の進駐軍家族専用になり、日本人の立ち入りが禁止になった時代もありました。現在は市営龍城ヶ丘プールとして、多くの人に親しまれています。

「めんこ、竹馬、こままわし。家の中では遊ばなかったですね」

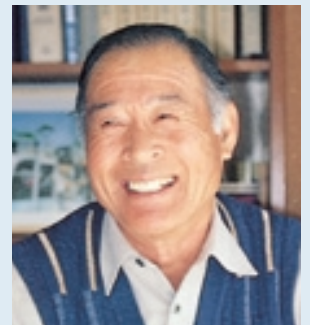
子どものころの風景は、今とはまったく違いますね。わたしが通っていた大野の小学校から西側は、家がほとんどなくて、春は麦畑、夏から秋はさつまいも畑、それが終わると大根畑という感じで、のどかな風景が広がっていました。今は、家が建ち並んで見えなくなりましたが、当時は、小学校の校舎から中原の日枝神社の森がよく見えただんですよ。

遊びも今とは違いますね。まず、家の中では遊ばせませんでした。相撲取りの体の形をした「めんこ」や軸が鉄できている「こま」でよく遊びました。それから、竹馬で遊んだのも覚えています。家の竹やぶから竹を切って自分で作るんです。どれだけ高い竹馬に乗れるかをみんなで競ってね。わたしなん

かは、屋根から乗るような竹馬を作ったものですよ。

でも、小学校3年生のときに戦争が始まって、それが中学校1年生のときまで続いたんです。ですから、ちょうど遊び盛りのときに戦争一色でした。焼夷弾が雨のように落ちてきて、近くの畑が火の海になったり、飛行機が低空で飛んでいたりしましたね。それから、戦時中はものが少なくて、靴だって貴重でしたから、「雨が降ると靴が傷む」と言って、裸足で学校へ通ったものですよ。

戦争が終わると、どんどん家が建って、まちも発展してきました。このまちに暮らして70年になりますが、昔、自然の中で遊んだ経験や戦争のときに学んだことは、今の暮らしの中にも生きていますね。



1932年生まれ
平川直之さんの
ひらつか話